



# JForest 群馬県森連時報

vol.502

【発行所】  
群馬県森林組合連合会  
前橋市上大島町182-20  
TEL.027(261)0615(代)

【制作・印刷】  
株式会社総合PR  
前橋市元総社町936-4  
TEL.027(253)8331(代)

## INDEX

新年のごあいさつ		森林組合林産・販売事業者会議 開催	7~8
群馬県森林組合連合会 代表理事会長 八木原 勇治	1~2	第53回 群馬県優良素材展示会	8
群馬県知事 山本 一太	2	「森林の仕事ガイダンス」東京&群馬で開催	9
群馬県環境森林部長(兼) グリーンイノベーション推進監 須田 恵理子	3	「フートピア21」第100回国際協同組合デー 記念交流集会	10
関東森林管理局長 赤崎 暢彦	3~4	林福連携の実践 利根沼田森林組合	11
全国森林組合連合会 代表理事会長 中崎 和久	4~5	職員連盟ゴルフコンペ	11
農林中央金庫 前橋支店長 波多 信宏	5	JLC大会 3位入賞 横山氏表敬訪問	12
森林組合理事研修会 開催	6~7	あとがき	12

## 新年のごあいさつ



皆様、新年明けましておめでとうございます。旧年中は森林組合系統事業に多大なるご理解、ご協力をいただきまことにありがとうございました。

さて昨年は長引くコロナ禍の中、ロシアのウクライナ侵攻で世界情勢が不安定となり

資源や穀物価格は急騰し、米国の金融政策転換等に起因した歴史的な円安も重なり、原油、ガス、電気、食料等一般的な値上げ、物価上昇に悩まされました。

木材業界では一昨年のウッドショックの反動や予想外のロシア材供給継続等による製品在庫過剰と需要減により製品販売不振が生まれました。

コロナ禍とウクライナ情勢による世界貿易の混乱で、あらゆる製造業でも原材料・部品等のサプライチェーン確保が課題として認識されたところですが、こと木材について我が国は豊富な森林資源を有しており、為替や輸送コンテナ事

群馬県森林組合連合会  
代表理事会長 八木原 勇治

情等に左右されない国産材の優位性と価値はあらためて評価されるべきであります。資源としての国産材活用を経済安全保障の観点からの流通面への政策的手当の必要性等も含め要望を強めてまいりたいと考えております。

昨年、会員森林組合におかれましては「組合員サービスの向上」「働く人の所得向上・就業環境改善」「事業拡大・効率化による経営の安定」を課題とする新たな系統運動であるJForestビジョン2030を各々の具体的運動目標を含め決議いただきました。県内全体としてもJForest群馬県森林組合ビジョン2030を策定し、まずは4年後令和7年度の系統素材生産量目標15万m<sup>3</sup>を掲げました。各森林組合では森林経営計画の継続的策定による事業対象地の確保と主伐・再造林施策の推進により、素材生産量拡大を目指してまいります。県森連においてはこの販売流通機能をさらに高めるために、県産木材のサプライチェーンとして生産・販売・流通を管理すべく導入したクラウドシステム(木材SCMシステム)を活用し成果を向上させたいと考えております。

また新系統運動にも明記したSDGs宣言については、県

森連においてもこれを実施いたしました。SDGsの理念は森林組合事業の実践に合致し、森林組合系統事業のPRに有効ですが、具体的には生物多様性に配慮した持続的森林経営の証であるSGEC等森林認証の取得をさらに広め、高まりつつある森林認証材の実需に応じてまいります。

森林環境譲与税については全国的にもその着実な活用や、市町村への配分基準の再考等が話題となってきました。県森連では県内各市町村における有効活用促進と森林組合系統としての事業確保・拡大に寄与すべく、指導部に経営管理室を設置しました。同時に木材部では公共建物等への県産材(地元材)活用について鋭意これに対応しているところであります。

この他CO<sup>2</sup>排出削減のための国の制度であるj-クレジットについては脱炭素社会を目指す流れの中で関心が高まっており、このうち森林クレジットは森林整備により増加した

CO<sup>2</sup>吸収量すなわち木の成長量を算出しこれを価値化(クレジット)して販売するもので、全国の先進的取組が紹介されております。県内においても少しずつこの需要が芽生えつつありますが、森林組合がこの森林クレジットを販売することにより、木材販売代金以外の収入源を確保でき、これを財源として持続的な森林整備高度化への取組強化が期待できます。県森連としてもまずはモデル事例に取り組み、新たな森林組合系統事業としての展開を試みたいと考えております。

令和5年も混沌とする社会経済情勢の中ではありますが、森林組合系統の存在意義・使命を常に意識しつつ、社会の変化や新たなニーズに的確に対応し、県森連一森林組合が一体となり系統事業全般を進めてまいり所存でありますので、引き続き、絶大なるご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本年も何卒よろしく願い申し上げます。

## 新年のごあいさつ



明けまして、おめでとうございます。

県民の皆様には、健やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。併せて、新型コロナウイルス感染症との戦いの最前線で頑張っている医療関係者の皆様、感染防止対策にご理解、ご協力をいただいている全ての県民の皆様に、深く感謝を申し上げます。

前年に引き続き、昨年も「新型コロナの抑え込み」と「経済の回復」に全力を注いだ1年でした。同時に、アフターコロナ時代を見据え、新たな富やイノベーションを生み出す政策にも、果敢に取り組みました。

日本の温泉文化をユネスコの無形文化遺産に登録する運動に関しては、全国有数の温泉王国である群馬県が中核となって、与党の国会議員連盟や、知事の会を発足させました。

### 群馬県知事 山本 一太

遺産登録に向けた強力な推進体制を整えることが出来たと考えています。

加えて、群馬県が、他県より一歩進んだ「DXの推進」や「災害レジリエンスの強化」を打ち出し、次々と政策を実行していることで、本県の存在感や評価は、大きく高まったと感じています。実際、2つの大手企業が群馬県への本社機能の移転を決めました。知事として、こうした動きをとて力強く感じています。

4月には、Gメッセ群馬において、初めて誘致に成功した重要な国際会議「G7群馬高崎デジタル・技術大臣会合」が開催される予定です。群馬県が目指す「デジタル技術による地域課題解決」の推進に大きく弾みをつけると共に、群馬の魅力の世界に向けてアピールする絶好の機会にしたいと考えています。

本年も、群馬県が未来ビジョンとして掲げた「誰一人取り残さず、誰もが幸福を実感できる自立分散型の社会の実現」を目指し、知事である私が自ら先頭に立ち、邁進していく決意です。

## 新年のごあいさつ



新年あけましておめでとうございます。

群馬県森林組合連合会の皆様には、輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、ロシアのウクライナ侵攻などの影響により原油や穀物等の価格が高騰し、更に円安の進行によって輸入物価が上昇するなど、日本経済にとっては大変厳しい一年となりました。

こうした状況の中、県では昨年3月に「2050年に向けた『ぐんま5つのゼロ宣言』実現条例」を制定し、再生可能エネルギーの導入促進等に取り組んでいるところであり、森林分野においては、「自然災害による死者ゼロ」や「温室効果ガス排出量ゼロ」などの実現に向け、森林整備の推進や県産木材の積極的な利用を進めています。

今年は、令和3年に策定した「群馬県森林・林業基本計画2021-2030」が3年目を迎えます。「県産木材による自立分散型社会」の実現に向けて、素材生産・木材流通・加工

群馬県環境森林部長  
(兼) グリーンイノベーション推進監

### 須田 恵理子

体制の強化や、人材の確保・定着・育成等の林業労働力対策の取組をより一層進め、着実な成果につなげて参ります。

森林組合系統におかれましては、収穫期を迎えている森林資源の有効活用と高齢化した人工林の更新のため、これまで間伐中心であった施業を皆伐・再造林へ転換することにより素材生産量を増大させ、山元への一層の利益還元を進めていただきたいと考えています。

また、貴連合会では、県産木材SCMシステムの本格的な運用を開始するなど、「地域森林の適切な利用・保全と林業経営の更なる発展に向けて」をスローガンとした「JForestビジョン2030」の目標の達成に向けて取り組まれています。地域林業の中核的担い手である森林組合の事業活動を加速させ、地域の森林が適切に利用・保全されると同時に、林業経営が今後一層活性化されることを期待しています。

県といたしましても、本県の林業・木材産業の発展のため全力で取り組んで参りますので、引き続き皆様の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、群馬県森林組合連合会の皆様にとって幸多き年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。

## 新年のごあいさつ



新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶申し上げます。

群馬県森林組合連合会並びに会員の皆様には、日頃より、国有林野事業の円滑な運営にご理解・ご協力をいただいております。心より御礼を申し上げます。

また、森林経営計画の作

### 関東森林管理局長 赤崎 暢彦

成、森林施業の低コスト化、路網の計画的な整備等に積極的に取組まれ、民有林における森林施業の集約化を図るとともに、群馬県の林業、木材産業の発展にご尽力されておられますことに対し、心より敬意を表します。

昨年も新型コロナウイルス感染症の流行が治まらず、経済活動にも影響が続いております。林業、木材産業界においては、コロナウイルス感染症の拡大による海外産地での木材生産や流通の停滞、木材輸入の混乱・輸出の減少状況が発生しました。

夏以降には市場価格は昨年より下がり、荷動きなども停滞を見せておりましたが、秋からは荷動きも出てきており、ウッドショック時のようなひっ迫感はなくなりましたが、引き続き海外産地や海外の消費市場、国内の状況を注視していく必要があります。

そうした中、国では、令和3年6月に閣議決定された「森林・林業基本計画」により林業・木材産業の持続性を高めながら成長発展させることで、2050年のカーボンニュートラルを見据えた豊かな社会の実現に取り組むこととなりました。特にこの中では「新技術」を活用して、伐採から再造林・保育に至る取支のプラス転換を可能とする「新しい林業」を展開していくこととされています。これは、「長期にわたる持続的な経営」を実現できる林業経営体を育成するための事業であります。

本年も、林業を取巻く課題は多く、未だ感染症の終息時期や最終的な影響は見通せない状況にあります。関東森林管理局では、国民共通の財産である国有林野を適切に管理経営するとともに、林業を成長産業化の軌道に乗せるため、また、木材利用の一層の推進を図るため積極的に取り組んでまいります。今後も木材産業の体力強化と経営安定のため皆様はじめ業界の関係者、地域の皆様の声に耳を傾け、適時・適切な木材の供給に努めてまいりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、群馬県森林組合連合会並びに系統森林組合の益々のご発展と皆様のご健勝、ご多幸を心から祈念申し上げます。

力体制の構築に注力して参ります。その他、昨年8月には韓国山林組合中央会と事業協力協定を締結し、林業政策や技術者育成に関する情報共有等、相互発展に向け協力を深めることとしました。早速、韓国の山林組合視察団による日本の森林組合、森林組合連合会への視察が行われ、今後も様々な連携を進めて参ります。

さらに、新たな取組として、カーボンニュートラル社会への貢献を目指し、農林中央金庫とともに、森林組合系統における森林由来クレジットの円滑化に向けてサポート策の検討を進めています。

進めています。

今後も、弊会では系統関係者及び関連団体とともに、森林資源の循環利用を通じた「グリーン成長」の実現、人材の確保・育成、林業労働安全、国産材利用促進等に向け、役職員一同精進する所存ですので、今後とも倍旧のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとって幸多き一年となりますよう祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

## 新年のごあいさつ

全国森林組合連合会  
代表理事会長 中崎 和久



年頭に当たり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、弊会の業務運営につきまして特段のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年も集中豪雨等により全国各地で災害が発生しました。被災された方々に衷心よりお見舞いを申し上げますと

ともに、森林組合系統が一丸となって、復旧・減災の取組に尽力することを改めて決意する次第です。また、新型コロナウイルス感染症については、感染対策から社会経済活動との両立への転換が進められているところですが、昨年末より新たな感染拡大が始まっており、ウクライナ情勢を始めとした世界情勢の混迷と合わせて、経済への影響が懸念される所です。

その一方で、SDGsやカーボンニュートラル社会の理念の広がりを受け、森林の多面的機能の発揮への国民の期待が高まっており、森林組合系統に対しては、地域の森林管理の担い手として、森林資源の適正な管理や循環利用に向け中心

的な役割を發揮することが求められています。

そのような中、森林組合系統では、一昨年の秋に決議した「JForestビジョン2030」に基づき、系統各組織において、10年後の夢・目指す姿を策定し、地域森林の適切な利用・保全と林業経営のさらなる発展に向けた取組を本格展開しているところで

関連して、弊会が事務局を務める「林業技能向上センター」は昨年9月に任意団体から一般社団法人となり、林業に関する技能検定制度の構築に向けた取組を加速しております。技能検定制度の創設により、現場技能者の所得向上や作業環境の改善が図られ、ひいては業界全体の課題である労働力不足の解消につながるよう取組を進めて参ります。

また、昨年6月には森林・林業・木材関係6団体とともに、国産材の安定供給体制の構築に向けた「共同行動宣言」を行いました。この共同行動宣言では、「時代の要請に応える国産材の安定供給体制の構築に向けて」をテーマに、日本の森林が健全な姿で次世代に受け継がれていくため、持続性の確保された国産材の原木及び製品の生産・流通・利用と国産材シェアの拡大に向けて、生産者と需要者が一体となり実現を目指すこととした画期的なものであり、主旨の実現に向け協

## 新年のごあいさつ



新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。群馬県森林組合系統役職員の皆様に置かれましては、日頃より、森林・林業および森林組合系統の発展のために格別のご尽力をいただいておりますことに対し、心より敬意を表する次第であります。また、私ども

も農林中央金庫の業務につきましても、平素より格別のご理解・ご協力を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの収束が見えない中、ロシアによるウクライナ侵攻に伴う混迷、我が国においても、急速な円安の進行、物価の高騰が巻き起こり、各界は厳しい経営環境に置られました。一方で、気候・環境分野では、2050年までのカーボンニュートラル実現を目指す動きが国際的に広まり、環境問題解決に向けた投資も加速しています。本邦においても、GHGの排出量削減が企業の社会的責任として一層求められるようになり、森林由来のCO2吸収効果に着目し、企業側が森林・林業との結び付きを強化しようとする動きが高まっております。

こうした中、弊庫では、2030年中長期目標として、「農林中央金庫投融資先等のGHG排出量削減▲50% (2013年対比)」と「農林水産業者所得の増加」を掲げ、系統一体となっ

農林中央金庫  
前橋支店長 波多 信宏

た脱炭素社会の実現並びにそれを支える施業担い手の所得向上を目指しております。

「JForest群馬県ビジョン2030」の中で、森林組合の持続的安定経営の支援強化の一環として弊庫との連携を掲げていただいたところでありますが、弊庫におきましても群馬県森林の多面的機能の更なる発揮、林業担い手への付加価値の還元に向けたご支援に努めて参る所存です。昨年は、各種研修のご案内、労働安全装備品の購入費用助成、国産材利用拡大に向けた木製品寄贈活動、系統リース会社活用のご提案等を実施させていただきました。加えて、足元では、農林水産業者の所得向上を目指し、生産資材等の価格高騰対策として、資材の価格高騰費用の一部助成を実施しておりますので、事業のご活用を検討いただければ幸いです。

群馬県域における弊庫の担当部署が、関東業務部から地元群馬の前橋支店に再び戻って以来、約2年が経過いたしました。日頃のご協力に改めて感謝申し上げますと共に、弊庫各種施策に対する忌憚のないご意見・アドバイスを頂戴したくお願い申し上げます。今年も、多くの現場に足を運び、微力ながら森林組合系統の取組をサポートさせていただければと存じますので、今後とも厚誼を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

結びに、群馬県森林組合系統の益々のご発展と、皆様の一層のご健勝・ご活躍を心よりご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

### 森林組合理事研修会 開催

去る、11月24日に前橋市内の群馬県勤労福祉センターにおいて「森林組合理事研修会」を総勢60名の出席で開催した。

冒頭県森連八木原会長の挨拶では、新たな森林組合系統運動推進の下、系統がこれまで培ってきた技術と能力を発揮し、国民の信頼に応える組織づくりを目指して行きたいと述べた。

また、群馬県小山局長の挨拶では、各組合の運動方針で掲げた数値目標にとどまらず、より高い目標に向けた事業活動を展開してほしいと述べた。

研修では群馬県林業振興課 林業担い手対策室 深澤室長より「県産木材の需要拡大に向けて」と題し、森林・林業基本計画に掲げる県内の「木材需要と生産量」、「素材生産量と搬出間伐・皆伐面積」、「燃料用木質チップ等の生産量」などの推移の他、大型製材工場の群馬県への誘致について説明が行われた。また、森林施業プランナー及び森林経営プランナーの育成や労働安全対策の徹底について呼びかけた。



▲林野庁 江崎課長補佐

続いて、林野庁林政部経営課 江崎課長補佐より「森林組合等におけるインボイス制度への対応」と題し説明が行われ、令和5年10月からインボイス制度(適格請求書等保存方式)が始まることから、事業者が仕入税額控除を行うためには仕入れ先からのインボイス(適格請求書)の発行と保存の必要性があり、インボイス発行事業者になるための登録申請手続きなどの必要性を組合員や取引事業者等へ制度の周知や対応準備を進める事などの説明の他、組合員及び森林組合が行う林産物取引時の手続きや仕入税額控除ができない消費税の経理処理方法

などの説明があった。

続いて、山梨県からお越しいただいた北都留森林組合 専務理事兼参事 中田無双氏より、これまでの北都留森林組合の取組みや森林組合の役割と使命について講演をいただいた。

北都留森林組合は上野原・小菅村・丹波山村の1市2村の広域森林組合であり、管内森林面積が24,499ha、組合員1,903名、事務職員2名、技能職員18名、東京都と神奈川県に隣接する県境地域に位置し県境を越えた流域連携に力を入れ、地域林業の現状把握と分析を行い、自組合におけるプラス面・マイナス面を最大限に活かした事業展開を行っている。



▲北都留森林組合 中田専務

過去には組合事務所の放火により所有トラック・重機等の消失や、取引先の倒産などにより多額の債権発生や労働災害の多発があり危機的経営状況となった。この状況から再建を図るため、まずは外部経営コンサル指導の下、能力評価システムを導入し、職員のモチベーション向上や優秀な人材の育成・定着などを目的に、給与体系の見直しや労働安全対策を図るため職員全員と本気の話し合いの機会を設けるなど経営改革に取組み経営危機を打開した。

その後は、これからの林業経営の在り方を考え、経営革新として経営価値・労働の価値・森林生態系の価値を高める取り組み等を推進するほか、「山からどれだけの材(量)を出すのではなく、山からどれだけの価値を生産できるのか」を考えた付加価値の最大化を目指し、北都留森林組合の存在意義を第一に考えた、

木材生産と環境保全の両立した調和のとれた森づくりと林業に取り組んでいる。また、大手企業(ホンダ・JT・東急ホテルズ・サントリーなど)と連携した「企業の森による森林整備活動」の取組みとして、植林・下刈り・除間伐・獣害防除対策・登山道整備・木材利用・森林リクリエーションなどにも積極的に取り組むほか、森林環境譲与税などの活用として、森林を持たない都市部の財源をいかに流域内の森林へ活かしていくかをポイントととらえ、「都市と山村連携」推進している。

研修会最後は、農林中央金庫 営業企画部 森林班 森部長代理より森林由来のJ-クレジット制度について説明が行われた。J-クレジット制度とは、省エネ機器や再エネ設備を導入する際のCO<sub>2</sub>搬出削減量、森林管理(間伐)の取組みによるCO<sub>2</sub>吸収量を「クレジット」として国が認証した制度で、創出されたクレジットの活用を通じ地球環境貢献や地域森林保全のPR効果も期待でき、創出者と購入者の双方にメリットのある制度である。この森林クレジットは森林所有者もしくは管理者でなければ発行が出来ず、対象地は森林経営計画が作成された森林に限られて

いるなどの適用条件がある。こうした中、年々J-クレジット制度の登録件数は増加傾向にあるが、森林管理による森林クレジットの登録件数は少なく(全体の約1割)、また、その登録の6割が企業や市町村となっている。こうしたことから、クレジット購入ニーズのある企業や団体等に対し、森林組合系統から創出される森林由来のクレジットの販売仲介窓口として農林中央金庫と全国森林組合連合会がサポート体制を構築し森林クレジットの促進を期待している。



▲理事研修会の様子

環境中で分解しやすいオイル  
生分解度28日で60%以上  
(OECD301C試験による)

エコマーク認定番号  
第04110009号

**植物油生分解性オイル**  
YSバイオ  
**チェーンオイル**  
特許 第3513132号

**森林に優しい**  
**チェーンソー専用オイル**

服に付いた油汚れが洗剤で落とせる抜群のスベリでチェーンやバーの摩擦を防ぐ  
荷姿/4Lポリ・18L缶(オールシーズンタイプ) ※エンジンオイル・食用油としては、使用できません。

### 森林組合林産・販売事業者会議 開催

11月15日に県庁ビジターセンターにおいて、県内森林組合の林産・販売事業担当者等を対象に「林産・販売事業者会議」を開催した。

冒頭の県森連鈴木専務の挨拶では、系統運動に掲げている「循環型林業の確立と系統の販売力の強化」推進のため、系統のスケールメリットを活かした原木共同販売体制の構築と事業連携を進め素材生産量の増大に繋げたいと述べた。

会議ではまず、群馬県林業振興課 高山課長より数年前より進めている県内への大型製材工場の誘致について状況報告のほか、近隣の国産材製材工場の稼働状況や系統と素材生産業者等との連携推進に



▲林業振興課 高山課長

WOOD PAPER GOODS

**木の紙グッズ**

木をスライスし和紙と張り合わせた木でできたグッズです。

**木の名片 3,150円**  
●サイズ 54×90  
●100枚入り  
●フナ・スギ・ヒノキ  
ヒバ・カエデ

**木のバインダー 1,575円**  
●サイズ A-43コ  
●スギ

**木の色紙 525円**  
●サイズ 242×272  
●フナ・スギ・ヒノキ

※ご購入ご希望の方は、群馬県森林組合連合会環境製品課まで

よる、県産木材の安定供給体制の確立に向けた説明があった。

続いて、県森連木材部より、令和4年度上半期の販売事業各部門（前橋共販所、協定直送販売、桐生木材ヤード、麻生木材ヤード、前橋バイオマス燃料）毎の取扱実績と渋川県産材センターの加工事業実績と、渋川県産材センターの製品および協定直送販売（素材）の取引先個別の直近の需要状況や今後の見通しについて説明が行われた。

その後、各森林組合より今年度素材生産実績に対する上半期の進捗状況と、下半期の具体的事業実践見込等が報告された。また、各森林組合における協力事業体の活用状況や具体的連携手法等についても紹介いただき情報共有を進めた。

会議の最後には、現在運用中の木材SCMシステムに追加機能として開発を進めている「業務日報・事業収支管理システム（クラウドシステム）」について県森連 高橋指導部

長より説明があり、施業地毎の作業日報の入力による素材生産量の報告が流通管理システムと連動し管理業務の効率化に繋げるシステム開発の検討内容の共有を図った。

県森連では、今後も森林組合系統での情報共有を密にし、系統運動の進捗管理や素材生産量増大を目指して行く。



▲林産・販売事業会議の様子

## 第53回 群馬県優良素材展示会

去る12月7日（水）に恒例となっている群馬県優良素材展示会が前橋木材共販所で開催された。

今回はスギ、ヒノキ計22点が出品され事前に行われた審査会の結果、下仁田町森林組合出品のスギ4m、30～34cmが最優秀賞（林野庁長官賞、群馬県知事賞）に輝いた。

午前中に表彰式が行われ午後で開催された市では入賞した素材を中心に軒並み高値で落札された。



▲表彰の様子

- ◇最優秀賞  
(林野庁長官賞・群馬県知事賞) 深澤 久仁汎  
(群馬県知事賞) 木村 光一
- ◇優秀賞(関東森林管理局長賞)  
安中市  
神流町
- ◇優良賞(群馬県森林組合連合会長賞)  
南牧村森林組合  
烏川流域森林組合  
桐生広域森林組合
- ◇技能賞(群馬県木材組合連合会長賞)  
赤城南麓森林組合  
吾妻森林組合  
下仁田町森林組合
- ◇努力賞(群馬県林業改良普及協会会長賞)  
金子産業  
利根沼田森林組合  
鐺川東部森林組合

## 「森林の仕事ガイダンス」東京&群馬で開催

「森林の仕事ガイダンス」が令和4年10月22日（土）東京国際フォーラムにて開催された。

森林の仕事ガイダンスは、新たな林業の担い手の確保・育成を目的に、森林・林業に関心を持つ方を対象に実施する説明・相談会であり、各都道府県の林業労働力確保支援センターや森林組合連合会が相談ブースを設け、各地の林業に関する情報、林業作業の内容や就業までの流れについての説明、相談者からの相談に応じた。

群馬県ブースを訪れた来場者には、「緑の雇用事業」の内容や群馬県の森林・林業の現状のほか、林業体験ができる「ぐんま林業就業支援研修」等のPRを行った。来場者の中には群馬県内への移住を考えている方もおり、移住後の生活環境や移住支援、就業状況などの相談もあった。

また12月3日（土）には、「群馬森林の仕事ガイダンス」をホテルラシーネ新前橋を会場に開催した。ガイダンス会

場では、群馬県林業振興課、林業労働力確保支援センターにご協力いただき、森林、林業に興味のある方へ、林業PR、就業への道のり、「緑の雇用」事業内容説明や就業相談にあたった。また、今回から林業会社（3社）にもご協力いただき、各会社の事業説明（パンフレット配布・事業PR）にあたった。

相談者は群馬県林業振興課、林業労働力確保支援センター、県森連の相談員から群馬県の森林・林業の現状や各種事業・研修会、就業状況についての説明を受けた後、各林業会社で実際の事業など説明を受け熱心に相談していた。

相談者からは「高齢や未経験者でも林業に就業できるか」、「ぐんま林業就業支援研修の参加も含めて林業就業を検討したい」、などの声が寄せられた。



▲相談会場の様子



▲経営体との相談

## ● レンタルのニッケン

# 高性能林業機械 レンタルします



ザウルスロボ

フォワード

プロセッサ

グラップル

ハーベスタ

## 「フートピア21」第100回国際協同組合デー記念交流集会

去る12月12日、「フートピア21 第100回国際協同組合デー記念交流集会」が開催された。

フートピア21は、群馬県のJA・生協・森林組合の協同組合間連携組織であり、協同組合の更なる発展と社会貢献活動を目的としている。

今回は各団体より約20名の職員が参加し、午前が高崎市にて林業素材生産現場の視察、午後は前橋市学生生協会館にて意見交換会が行われた。

午前の林業現場視察は烏川流域森林組合の協力のもと行われ、まず県森連 山田指導課長より群馬県の森林林業についての説明、その後烏川流域森林組合 高橋氏より森林組合について説明があった。そして烏川流域森林組合 石井氏の解説のもと、チェーンソーでの伐倒、ハーベスタでの伐倒と玉切りを見学した。参加者は普段、林業現場に来ることのない方がほとんどであり、木が倒れる際には歓声が上がった。またハーベスタを近くで見学し、参加者からは「林業がこんなに機械化されているなんて知らなかった」など感想が挙がった。終始、参加者は興味を持って林業現場作業を見学している様子であり、林業について知ってもらう良い機会となったのではないかとと思われる。

午後の意見交換会では、全国の協同組合の実践事例について映像を視聴し、活発に活動している協同組合について知ることができた。またグループワークを通して他団体の方と交流し、日常の業務では知ることができない話を聞くことができた。

今後もこのような場を設け、互いについて知る機会をつくっていただけると良いのではないだろうか。



▲林業現場視察

森林とともに80年

# 森林保険

台風や集中豪雨、火災など万が一の災害に備えることができます。

森林保険は、「森林保険法」(昭和12年法律第25号)等に基づき、森林所有者を被保険者として、森林についての火災、気象災、噴火災による損害を総合的に補償するものです。森林所有者が自ら災害に備える唯一のセーフティネットです。

〈保険金のお支払いの対象となる8つの災害〉

- 火災
- 風害
- 水害
- 雪害
- 干害
- 凍害
- 潮害
- 噴火災

お問い合わせは、お近くの森林組合、または森林組合連合会へ

群馬県森林組合連合会：〒379-2153 群馬県前橋市上大島町182-20  
TEL: 027-261-0615 FAX: 027-261-0697

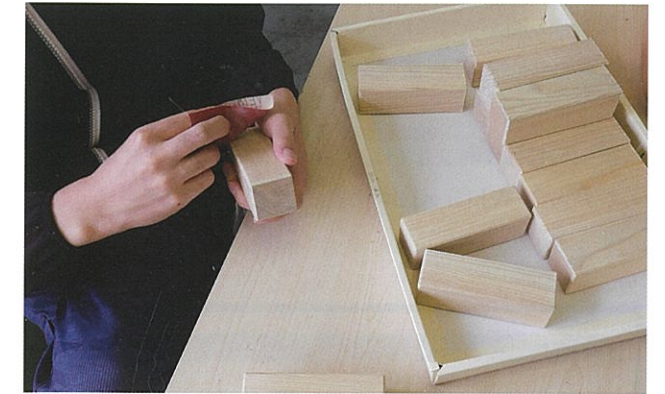
## 林福連携の実践 利根沼田森林組合



森林組合系統運動JForest群馬県森林組合ビジョン2030では、取組項目5「国民生活とSDGsへの貢献」のうち「異業種との連携」として、福祉施設等との事業連携の取組みである林福連携について明記しているが、利根沼田森林組合ではこれを既にも実践している。

連携先はみなかみ町社会福祉協議会が運営する福祉施設びっころであり、森林組合からは、キャンプファイヤー用の薪のたが詰めや木工品の積み木の仕上げ研磨(やすりかけ)等の作業をお願いしている。いずれも年間を通じ業務依頼しており、森林組合としては手間のかかる軽作業を協力いただけ、福祉施設としては障がい者の就労機会の安定確保につながっており、まさにウィンウィンのパートナーシップを実現している。

利根沼田森林組合では、この他地域の生協や農協との連携(利根沼田地区フートピア21)にも取り組んでおり、パートナーシップによる森林の持続可能性確保や森林環境教育の提供、地域における雇用創出等に積極的に貢献し、誰一人とり残さないSDGsの理念を森林組合としてさらに進めていくこととしている。



▲積み木やすりかけ

## 職員連盟ゴルフコンペ

去る9月22日に太田市の鳳凰ゴルフ倶楽部において三年ぶりとなる森林組合職員連盟 親睦ゴルフコンペを県内森林組合職員ら総勢18人の参加により開催した。

開会式では、吉野会長より「横のつながりをつくれるよう親睦を図り、ケガのないよう一日楽しみましょう」と挨拶がありスタートした。



▲吉野会長による始球式

参加者は秋晴れのゴルフ日和に、ナイスショットなど多くの歓声がコースに響き渡るほどの盛り上がりを見せていた。



▲参加者集合写真

# JLC大会 3位入賞 横山氏表敬訪問

昨年5月に青森県で開催された日本伐木チャンピオンシップにおいて第三位に入賞したことを受け、下仁田町森林組合石井薫組合長と共に横山大蔵氏が県森連八木原会長に表敬訪問に訪れた。

横山氏からはJLC大会での競技のスピード感や正確さをはじめ、大会中の選手たちの緊張感のほか、世界大会への意気込みなども聞かせてくれた。八木原会長からは世界大会でも上位を狙ってほしいと激励の言葉がかけられた。

横山氏におかれましては、今年4月にエストニアで開催予定の世界大会(WLC)へ日本代表として出場する。



▲表敬訪問 左より八木原会長・横山氏・石井組合長

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsの木製ピンバッジご購入のご相談をお受けしております



### SDGs (持続可能な開発目標) とは？

SDGsとは、Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の頭文字から生まれた造語です。2015年の国連サミットで採択された国際目標で、持続可能な開発目標として17のゴールと169のターゲットから構成されています。

## あとがき

新年明けましておめでとうございます。

コロナウイルスが流行してからもう3年が経とうとしています。

皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回はコロナウイルス流行後、はじめての行動制限なしの年末年始ということで、久々に帰省や旅行をされた方もいたでしょう。

コロナウイルス終息の目途もなかなか立ちそうにありません。

引き続き感染対策をしっかりとしつつ、

でも人とのつながりも大切にしていけると良いのかもしれない。

今年もどうぞよろしくお願いたします。



(江角)